

6月3日

## アフリカの殉教者

カロロ・ルアンガと同志

(19世紀)

～世界で最初の黒人殉教者～

この6月3日は、カトリック教会では「聖カロロ・ルアンガと同志・殉教者」を記念する日となっております。また、米国聖公会でも1886年のウガンダの殉教者を覚える日となっているため、ここでは世界で最初の黒人殉教者であるとも言われるカロロ・ルアンガとその同志にまつわるエピソードを紹介したいと思います。

北アフリカ地域には、1世紀にはすでにキリスト教が入り、3～4世紀には最盛期を迎えます。しかし7世紀にイスラム教がこの地域に入ってきたことをきっかけに、キリスト教は廃れていきます。アフリカにキリスト教が再び伝えられたのは18世紀末からでした。

そして1879年、中央アフリカのウガンダに、ルーデル神父を長とする宣教師の一行が、キリスト教を伝えるために入国しました。その当時のウガンダの王ムテサは宣教師たちにとっても友好的で、しばらくは、自由に宣教することを許されます。その間に神父たちは教会を建て、診療所をつくったり、孤児の世話をしたりと献身的に働きます。また王の側近や王に仕える人たちにもキリスト教は浸透していきます。王に仕えていたカロロ・ルアンガもその一人で、ルアンガをはじめとする数名は、洗礼も授かります。



しかし、ムテサ王が亡くなり、息子ムワンガが王になると状況が変わります。宣教師たちはすでにアフリカを離れ、ルアンガたちが信仰の指導をしていましたが、王の同性愛を信徒が批判したことなどをきっかけに、キリスト教は激しく迫害されていきます。

あるとき、宮廷に仕えていた家来の一人がキリスト教を教えていることを知った王はすぐに彼を殺し、その夜の内にその仲間をすべて逮捕します。そしてまだ20代前半だったカロロ・ルアンガをはじめ15名は、そのまま50km先の処刑場まで歩いて行かされます。しかし、彼らは談笑しながら、お互いに励まし合いその道を進んで行きました。そして処刑場では生きたまま箆に包まれ、その上から火をつけられて殺されます。

この19世紀の終わりに、聖公会やカトリックの信者たちは、100名以上も迫害を受け、殉教したと言われます。

### <特禱>

**全能の神よ、あなたは証びとを召して国々、ことにアフリカに遣わし、その生涯によって栄光を現されました。どうか殉教者たちとの交わりが強められ、わたしたちもその模範に倣い、感謝して忠実にみ国のために働くことができますように、主イエス・キリストによってお願いいたします。**  
アーメン